



ニュースレター

編集・発行 京都市住宅供給公社 京安心すまいセンター

鯉棟梁

[1] 新着情報

■ 京安心すまいセンターからのお知らせ

○令和3年度木造住宅耐震診断士等派遣事業について

今年度の受付状況（2月末現在）

木造住宅 135件、京町家（診断 123件、基本計画 35件）

※今年度の受付は終了しました。

※令和3年度の基本計画作成事業は京町家のみ実施しています。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000119039.html>



■ 京都市からのお知らせ

○「まちの匠の知恵を活かした京都型耐震・防火リフォーム支援事業」の提出期限が迫っています。

お忘れないようにお手続きください。

※工事後の手続き：実績報告の期限は3月15日（火）必着。

詳しくは本市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000235294.html>



お役立ち情報

■ 木造住宅の耐震改修工事に活用できる制度



<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/00061104.html>

■ 京都市の住宅に関する融資や助成制度



<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000246819.html>

■ 京都市のすまいの補助金のご案内



<http://www.kyoto-ikosha.or.jp/sumai/taishin/index.html>

[2] コロナ禍における診断士派遣事業の対応

耐震診断士の皆さまへ「新型コロナウイルス感染症の拡大防止対応について」は下記からご覧になれます。

http://www.kyoto-ikosha.or.jp/sumai/taishin/pdf/corona_annai.pdf



[3] 本日のつぶやき

耐震診断士さんの中には、「スレートなどの軽い屋根なのに太陽光パネルがいくつも載っている場合は【軽い建物】として評価するのかわ??」と考えたことはないでしょうか。

そんな素朴な質問にも、日本建築防災協会は回答しています。実況に応じて、診断士の判断による部分はあると思いますが、一般診断法における安全率を過大に評価せず、危険側にならないよう心掛けることが大切だと思います。

詳しくは、下記のリンクから見る事が出来ます。

[2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法の質問・回答集（2019.12.13現在）の | P6 | Q3.20 | を参照。](#)

[Microsoft Word - 2012年版Q&A案_200313.docx \(kenchiku-bosai.or.jp\)](#)



京都市住宅供給公社

みやこ **安心すまいセンター**
MIYAKO ANSHIN SUMAI CENTER

〒604-8186
京都市中京区烏丸御池東南角
アーバネックス御池ビル西館4階

開館時間

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間、開館時間を午前9時45分から午後4時30分に短縮しています。※水曜日・祝日・年末年始を除く

TEL

075-744-1631
[耐震・エコ助成ホットライン]

FAX

075-744-1637

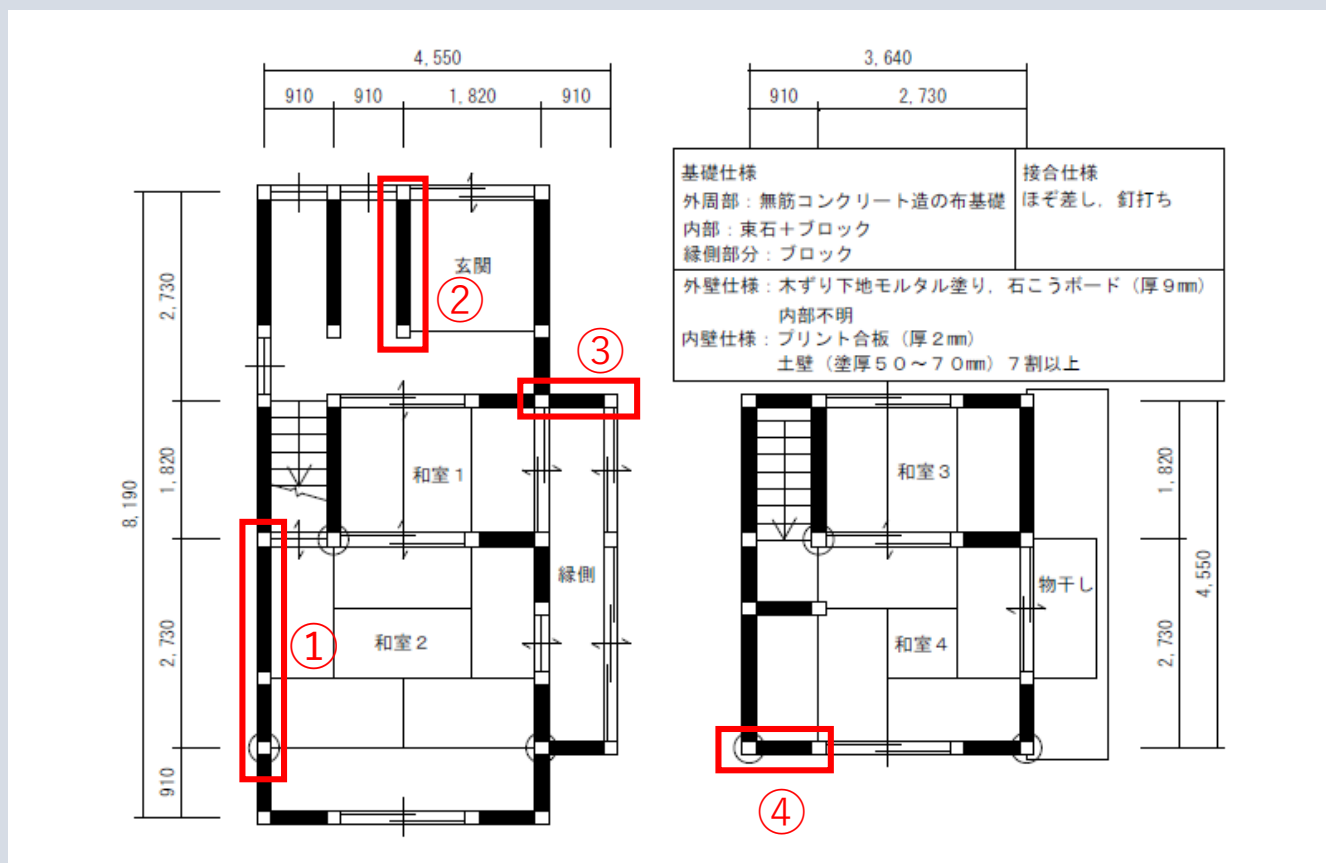
URL

<http://www.kyoto-ikosha.or.jp/sumai/index.html>

[4] よくある問題『壁・柱の耐力』

一般診断法における『壁・柱の耐力』について問題です。
下記の問題の壁・柱の耐力を算出ください。ただし、この建物は京都市内に存し、実況により考慮する条件等はないものとします。

 : 赤線で囲まれた部分①～④の壁・柱の耐力を算出下さい。

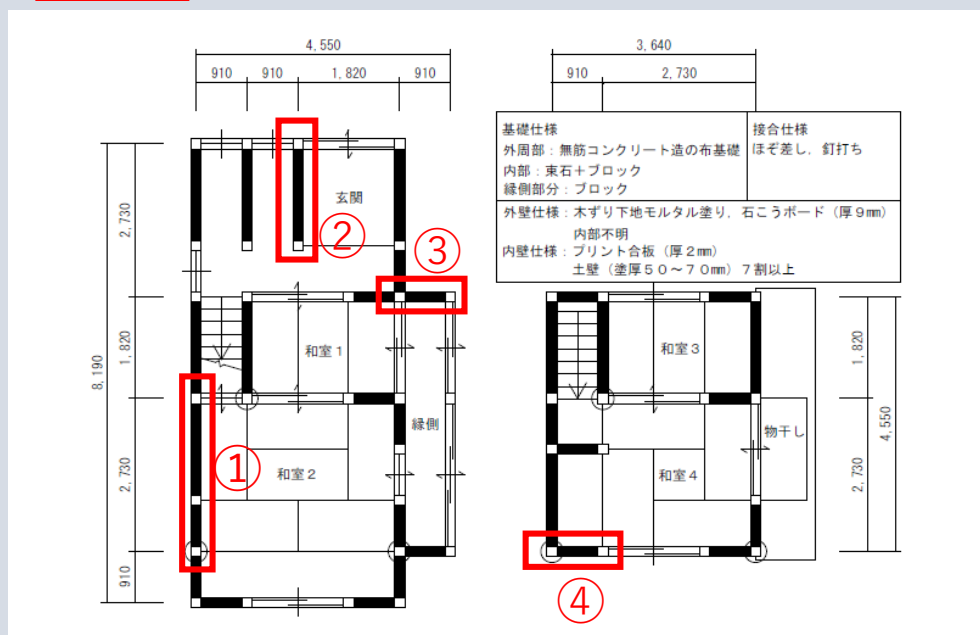


《ポイント》

柱頭柱脚接合部の種類による耐力低減係数 K_j について，壁基準耐力が表に掲げる数値の中間の値である場合，その上下の壁基準耐力係数から直線補間することで算出できます。（一般社団法人日本建築防災協会発行「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」p.37の解説部分を参照ください。）

[4] よくある問題『壁・柱の耐力』回答例

: 赤線で囲まれた部分①～④の壁・柱の耐力を算出下さい。



※【参考】明らかに上階からの押さえつけ効果のない下屋部分の考え方について

一般社団法人日本建築防災協会発行「一般診断法による診断プログラム(Wee2012)」の操作マニュアル(P28～29)により、「上階の外周ラインに囲まれた範囲に両端の柱がいずれかでも含まれない場合「平屋建て」の接合部低減係数を用いて計算」との考え方が記載され、多くの診断ソフトに採用されています。

この問題では「実況により考慮する条件等はない」と記載されていますので回答例としましたが、実践においては危険側の判断とならないよう十分に配慮してください。

<回答例>

【壁・柱耐力①の計算】

- 壁基準耐力 $F_w=3.3\text{kN/m}$ 。（木ずりモルタル塗り： 2.2kN/m 、石こうボード（厚 9mm 以上）： 1.1kN/m 、不明： 0kN/m の合計）
- 接合低減係数 $K_j = (0.7-0.8) / (5-3) \times (3.3-3) + 0.8 = 0.785$ 。（2階建ての1階の表から、基礎仕様Ⅱ、接合仕様Ⅳ、壁基準耐力「3」と「5」の値を線形補間した値。）
- 壁長 $L=2.73\text{m}$

$$Q_w = 3.3 \times 0.785 \times 2.73 = 7.072065 \div 7.07\text{kN}$$

【壁・柱耐力②の計算】

- 壁基準耐力 $F_w=1.8\text{kN/m}$ 。（プリント合板（厚 2mm ）： 0kN/m 、土壁（塗厚 $50\sim70\text{mm}$ ）横架材間7割以上： 1.8kN/m の合計）
- 接合低減係数 $K_j = 0.7$ 。（平屋建（※【参考】参照）の表から、基礎仕様Ⅲ、接合仕様Ⅳ、壁基準耐力が 2kN/m 未満のため壁基準耐力「2」の値。）
- 壁長 $L=1.82\text{m}$

$$Q_w = 1.8 \times 0.7 \times 1.82 = 2.2932 \div 2.29\text{kN}$$

【壁・柱耐力③の計算】

- 壁基準耐力 $F_w=3.3\text{kN/m}$ 。（木ずりモルタル塗り： 2.2kN/m 、石こうボード（厚 9mm 以上）： 1.1kN/m 、不明： 0kN/m の合計）
- 接合低減係数 $K_j = (0.5-0.6) / (5-3) \times (3.3-3) + 0.6 = 0.585$ 。（平屋建の表（※【参考】参照）から、基礎仕様Ⅲ、接合仕様Ⅳ、壁基準耐力「3」と「5」の値を直線補間した値。）
- 壁長 $L=0.91\text{m}$

$$Q_w = 3.3 \times 0.585 \times 0.91 = 1.756755 \div 1.76\text{kN}$$

【壁・柱耐力④の計算】

- 壁基準耐力 $F_w=3.3\text{kN/m}$ 。（木ずりモルタル塗り： 2.2 、石こうボード（厚 9mm 以上）： 1.1kN/m 、不明： 0kN/m の合計）
- 接合低減係数 $K_j = (0.45-0.6) / (5-3) \times (3.3-3) + 0.6 = 0.5775$ 。（2階建ての2階部分の表から、接合仕様Ⅲ（構面の両端が通し柱の為）、壁基準耐力「3」と「5」の値を線形補間した値。）
- 壁長 $L=0.91\text{m}$

$$Q_w = 3.3 \times 0.5775 \times 0.91 = 1.7342325 \div 1.73\text{kN}$$